

ヨシゴイ *Ixobrychus sinensis* (Gmelin)

【選定理由】

1980年代までの愛知県では、夏鳥として県内沿岸部のヨシ原に数多く飛来し、干拓地や埋立地のヨシ原で普通に繁殖する小型のサギであった。繁殖期である5～6月の生息数が1990年代に激減しており、その頃を境にそれまで記録の少なかった内陸や丘陵地で若干記録が増えているが、その後も県内の確認記録は減少を続けた。内陸では名古屋市法螺貝池で2000年代半ばに繁殖記録がなくなり、沿岸部でも西尾市一色地区の2009年5月25日の記録を最後に県内全域から繁殖期の生息記録が消失しているだけでなく、県内では渡りの季節の記録も極めて希なものとなっている。

【形態】

全長36cmの小型のサギ類。上面が茶褐色で下面は黄白色。飛翔時に茶褐色の雨覆と黒色の風切のコントラストが鮮明。頭上の色は、雄の成鳥では黒く雌の成鳥では赤褐色。幼鳥は、体全体に縦斑があり、体の下面は淡色。



愛知県名古屋市長久池, 2004年7月7日, 浅井利明 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

夏期に沿岸部や平野部、丘陵部にある池沼のヨシ原に生息し繁殖するが、現在は通過個体を含め、姿を確認することが極めて希となっている。

【国内の分布】

主に夏鳥として飛来し、九州以北で繁殖する。本州中部以西では越冬例もある。

【世界の分布】

東アジアから東南アジア、ミクロネシア西部およびインドやセーシェル諸島に分布し、東アジアで繁殖するものは冬期南へ移動する。

【生息地の環境／生態的特性】

沿岸部の干拓地や埋立地、平野部や丘陵地にある池沼や水路、水溜りなどのヨシ原で繁殖するが、特に広大な水田がある沿岸部などの水辺を好む。ヨシ原の中で、ヨシやガマなどの茎と葉を用いてお椀のような巣を作る。採餌には繁殖場所の池だけでなく周辺のヨシ原や水田などへ出掛けて魚類、カエル、ザリガニなどを捕食する。ウォツ、ウォツまたはウォーオ、ウォーオと鳴く。

【現在の生息状況／減少の要因】

1970年代に本種が数多く生息していた伊勢湾北部の鍋田地区や三河湾東南部にある汐川干潟周辺では、2000年までにはほとんど姿を消しており、僅かに残っていた西尾市一色地区の沿岸部からも、2009年の記録を最後に繁殖期の記録がなくなっている。減少の要因は県内全域でのヨシ原面積の減少と、水田の転作による乾燥化などで餌となる生物が減少していることなどがあげられる。

【保全上の留意点】

干拓地や埋立地の遊休部分に、池沼を復元することが理想である。都市公園の池や住宅団地、工業団地の遊水池でも、繁殖期にある程度の水量と餌生物の確保ができれば生息は可能である。

【特記事項】

本種と捕食者であるチュウヒ、およびヨシ原面積の関係をみると、チュウヒが多く繁殖していた1980年代は、県内沿岸部に存在するヨシ原面積も広大で、本種の減少傾向はみられなかった。ヨシ原面積が減少した2000年頃から本種も激減しており、繁殖期の本種の記録が消滅した2009年には沿岸部からヨシ原の大半が消滅して、繁殖期のチュウヒの記録も減少している。

【関連文献】

黒田長久, 1984. 黒田長久編, 決定版 生物大図鑑 鳥類, p.47. 世界文化社, 東京.

(高橋伸夫)